

杉コレ 2011 in 日向



【主催】 宮崎県木材需要拡大推進会議 宮崎県木材青壮年会連合会
杉コレクション2011 実行委員会

【特別協賛】 株式会社 内田洋行

【協力】 日本全国スギダラケ倶楽部/建築雑誌 コンフォルト/フェニックス・シーガイア・リゾート/九州旅客鉄道株式会社

【協賛】 宮崎県産材流通促進機構 宮崎県木材青壮年会連合会 宮崎県林業研究グループ連絡協議会 宮崎県木材協同組合連合会
宮崎県森林組合連合会 宮崎県造林業生産事業協同組合連合会 (社)宮崎県治山林道協会 宮崎県森林土木協会
(社)宮崎県緑化推進機構 宮崎県緑化樹苗農業協同組合 独立行政法人森林総合研究所 森林農地整備センター 宮崎水源林整備事務所

左の写真:2011木づかいイベントの様子
表紙:日向市駅前交流広場木もれ日ステージからJR日向市駅をのぞむ。

口蹄疫、新燃岳噴火、そして

未曾有の東日本大震災

平成22年、宮崎県の畜産農家を「口蹄疫」が広がり、「非常事態宣言」の影響を受け、さまざまな産業に影響が広がった。終息後も深く傷跡を残しつつ復興に立ち上がった宮崎県を今度は新燃岳の噴火が発生した。

しかし、その後、私たちはかつてない経験をする事となった。

3月11日に発生した、東日本大震災である。当然、今回のイベント開催に関しての可否が検討された。木青会・宮崎県木材青壮年会連合会（のメンバーの中には被災地の支援活動を行う者もいた）

時間の経過とともに被害の甚大さが明らかになり、とてもイベント開催どころではない、被災地の復興支援を最優先にすべきでは、など会内の意見もなかなかまとまらなかった。

意見がまとまらなかったのは、震災後ひと月ほど経つてからであった。結局、宮崎県からできる復興支援とは、いままでどおりイベントを元気に開催し、笑顔を送り続けることであった。これまで宮崎県が受けた支援を今度は東北に返すこと。東北の人々に1日でも早く笑顔を取り戻してもらったためにも、感謝を込めて笑顔を届けることであった。

早速今年のテーマを整え募集を開始した。

日向で杉コレクションが開催されるのは、初回を含めこれで3回目となる。メンバーの中には過去3度の経験者も多数いたが、今回が初めてのメンバーも少なくない。



実行委員の気持ちとして、杉コレ発祥地として、今までにないものに仕上げなくてはという気概もありながら、メインスポンサーである流通促進機構の運営見直し等により、これまでのような予算の確保が難しく、どのようなイベントにするべきかを何度も検討をした。

これまで「杉コレ」は、県の木づかいイベント「宮崎やまんかん祭り」と併催することによって、一般の来場者も増え、杉コレの作品をより多くの方々に知ってもらい、触れてもらうきっかけとなっていた。予算縮小に伴い、杉コレ単独での開催となった場合、せつかくの作品を多くの方に見ていただけない。

結局、低予算でより多くの集客を図ることを目的に、「日向市産業・祭り」と共同で開催することとなり、イベントの準備が進められた。



杉コレ2011総評

審査委員長 内藤 廣 氏 建築家



いつの時代も人々の顔から笑いがなくなることはない。笑いはつらさを乗り越えるための人の知恵だ。笑いは緊張を解き、未来へと生る糧となる。今年の杉コレ開催地の名物である日向のひよっとこ踊りには、人を笑わせるなかに悲しみや怒りの感情も垣間見える。アホウになり笑い飛ばすことで、悲しみや怒りを振り払い、生きる元気を削り出すのである。ここまで続いてきた杉コレもこの精神に習ったものだ。こんな時代だからこそ、楽しみ、そして笑わなければ。今年も杉を使ったたくさんさんのジョークが全国から寄せられた。杉ならではの柔らかさや温かさを活かした思わず触りたくなるもの、形やアイデアが面白いもの、作ってくれた職人さんの技が光るもの、実に多様だった。驚きとともに涙したのは子供部門の「だっこいす」。子供の思いは一直線だ。杉の温かさと三陸の被災地の子供とを結びつける想像力。これには大人もかなわない。ここでは笑いではなく微笑み。三陸の悲惨さを思えば、今は笑いではなく菩薩のような微笑みこそが適切かもしれない。それがこのイベントから形となって生まれたことを誇りに思いたい。

3月11日に発生しました東日本大震災で、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今回の杉コレで、宮崎の杉を使いユーモアあふれるイベントを行ない、東北に笑顔を届けたいと思います。

日向市からスタートした杉コレは、宮崎県内を一巡して市制60周年を迎える日向市に戻ってまいりました。今年で7回目となった杉コレは、実行委員会スタッフ一同の念願だった日向市駅前広場「木もれ日ステージ」（設計：内藤廣氏）をプレゼン会場とし、日向市駅周辺に過去の杉コレ入選作品を配置します。テーマはシンプルに「座」。全国から、商品化を前提に子どもたちの笑顔あふれる作品を募集します。誰も考えたことのない杉のデザインを、実物大で製作します。特に今年は、内田洋行賞・コンフォルト賞を創設し、「受賞作品の商品化を主眼に…」と審査委員にお願いしていますが、杉コレのエッセンス「笑いの素」は忘れないで下さい。また昨年に引き続き「子ども杉コレ」も部門（小中学生対象）として全国から募集します。テーマは、大人たちと同じ「座」ですが、子どもの目線で想像する楽しい「座」を表現して下さい。今回はこれまでの杉コレを総括して審査員による「杉デザインのパネルディスカッション」を予定しています。

座

THE SUGIKORE
日向で駅サイト！ 作品テーマ
子どもたちに笑顔を・・・

募集要項

- 【応募締切り】 平成23年8月31日（水）まで（必着）消印有効となります。
- 【1次選考】 9月上旬に、応募作品の中から書類審査により実物大に仕上げる10作品を選考します。1次選考の結果は、実行委員会事務局よりご連絡いたします。
- 【最終選考会】 主催者が実物大の10作品を製作し、11月12日（土）に日向市駅前広場で開催される杉コレコレクション最終選考会にて、プレゼンテーションを行っていただきます。（子ども杉コレはプレゼンの必要はありません）

■応募資格

一般部門

一切の資格を問いません。おひとり様何作品でも応募できます。（個人・グループ可）

※ただし実物大に製作される10作品に選ばれた一般部門作者の方は、平成23年11月12日（土）に宮崎県日向市で開催を予定している杉コレコレクション最終選考会に参加し、最終プレゼンテーションを行っていただける方に限ります。

子ども杉コレ部門

小学生、中学生に限りです。

■応募方法

一般部門

作品テーマに沿った趣旨や図面をA3にまとめてPDFデータにて、下記の杉コレコレクション実行委員会事務局までメールにてご応募ください。

子ども杉コレ部門

作品の主旨と図面をA4サイズの用紙1枚にまとめて下記事務局まで郵送してください。作品デザイン画の裏面には、学校名、学年、氏名、生年月日、住所、連絡先、を記入してください（表には記入しないで下さい）

杉コレ2011 in 日向

Sugi-Collection 2011 in Hyuga

作品募集

THE SUGIKORE 日向で駅サイト！
子どもたちに笑顔・・・

作品テーマ 座

- 一般部門： 資格を問いません。（個人・グループ可）
- 子供部門： 小学生、中学生に限りです。
- 応募締切り： 平成23年8月31日（必着）
- 一次選考： 9月上旬
- 最終選考会： 11月12日（土）に日向市駅前広場



審査委員長： 内藤 廣（建築家）
審査委員： 藤野 樹（土木設計）
以上 共催（デザイナー・川上デザインルーム代助）
共催 藤野（デザイナー・ナガヲデザイン事務所代助）
共催 藤二（建築家）
協賛 株式会社日向建設 代理店（日向市）
共催 株式会社内藤洋行 代理店（日向市）
共催 株式会社内藤洋行 代理店（日向市）

主催： 宮崎県木材青年会連合会杉コレ2011実行委員会
特別協賛： 株式会社内藤洋行
協賛： 株式会社内藤洋行
協力： 日本全国木材加工者協議会・建築雑誌コンフォルト
〒882-0014 宮崎県日向市久保 5-1-10 Sugikore2011実行委員会
TEL: 0985-55-1945 sugikore2011@naito.co.jp

杉コレクション 2011 in 日向 応募全作品

例年より募集開始が遅れたにもかかわらず、今回も全国より多数の作品が応募されました。独創的なアイデアが詰まった杉コレクション2011への応募総数は108作品でした。



069 スペスベとザラザラ



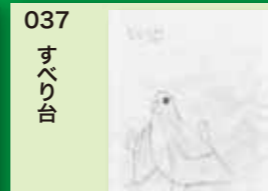
061 木の座布団=座木団



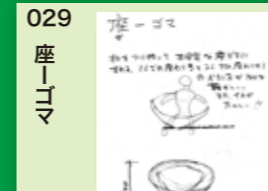
053 木の座布団=座木団



045 キリカブ



037 すべり台



029 座ーゴマ



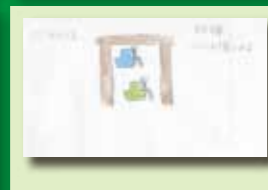
021 えんぴつ



013 無題



070 年輪の椅子



062 いこいのイス



054 Theイス



046 黒板消し



038 かかあ天下度測定器 やじろべえ



030 モクセイ



022 座り心地のいいイス



014 聖なる光



071 UMA SUGI



063 だんだん だんらんちえあ



055 なんでもないす



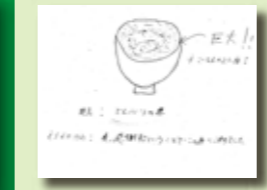
047 ゴツゴツ



039 かえるの大合唱 こしかけ(ゆずり合い)



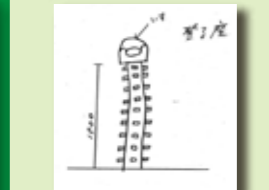
031 いしころころ



023 どんぶりの座



015 かるく寝そべれる椅子



007 登る座



001 THE 座



072 ハートのかけら



064 杉このスツール



056 いこいの場として 使ってほしい座



048 enjoyす!!



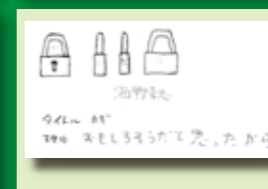
040 犬のベンチ



032 座



024 穴だらけ



016 カギ



008 シーソーの座



002 2人用の小型ベンチ



073 Child chair



065 SUGI-ZABUTON 「十六絆座」



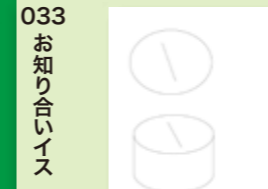
057 遠藤さん家のイス



049 Simple is 座 Bench



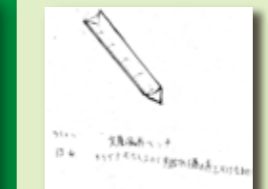
041 プリン型イス



033 お知り合いイス



025 月



017 定規風杉ベンチ



009 イルカのポッポちゃん



003 osugimaru



074 杉のパレット



066 杉勾玉(すぎまがたま)



058 はまぐり座



050 地球について考える人



042 時計



034 ビーナスの座椅子



026 友達と座るイス



018 月のイス



010 どの面に座る?



004 小さな椅子



075 花の座



067 杉バームクーヘン



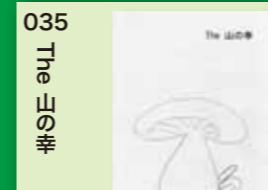
059 ゆらゆら揺れる杉バイク



051 無題



043 杉のベンチ



035 The 山の幸



027 伸び縮みする座



019 イス



011 ダイナソー



005 円筒形の座



076 いすとおともだち



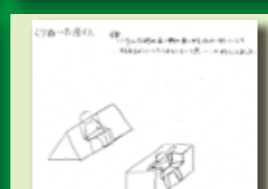
068 FOOT BASE



060 s-tool



052 大きな杉の木の下で



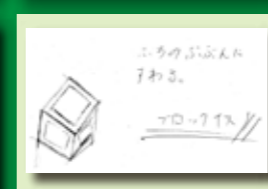
044 くりぬいた座イス



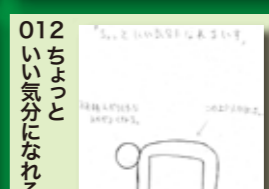
036 ひ座すぎ



028 無題



020 ブロックイス



012 ちょっといい気分になれるイス



006 子供たちの遊具

子ども杉コレ 2011 in 日向 応募作品

昨年よりスタートした子ども杉コレ。小中学生を対象にした子どもたちの作品には大人にはない「夢」が溢れています。残念ながら今回の応募作品は多くはありませんでしたが、どの作品にも子供たちの素直なイメージが表現されていて、思いの大きさは一般作品にひけをとっていません。



夏にピッタリの座



仲間(友達)



日本の和



社長のイス



自然な杉が自然に美しい



自然な杉が自然に美しい



日なたぼっこ



スターいす



イス



自然な杉が自然に美しい



ゆっくりすわれる杉のまあるいす



ハートイス「座」



たかといす



すわったらすきな方向に動かせるイス



何かを考えている人



空気イス



水そっいす



だっこいす



105 低スギあぐら椅子



101 スギバナナ



093 肩



106 いたずらづき



102 杉ドカン



094 THE Ittan Moment



107 座のZENの杉



103 あたらしい座ぶとん



095 MOON CHAIR



108 杉の3兄弟



104 木の子



096 SMILE CHAIR



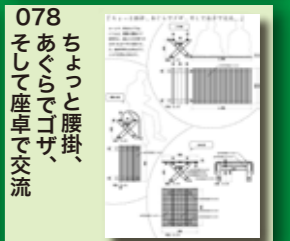
085 URO URO



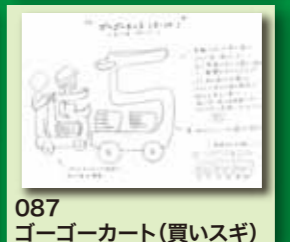
077 座って交流みや座木杉



086 SUGIBOW



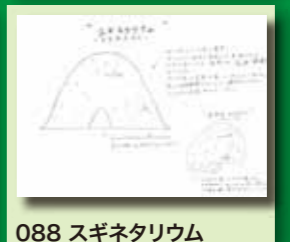
078 あぐらで「コサ、そして座卓で交流」ちよっと腰掛、



087 ゴーゴーカート(買いスギ)



079 杉っ子、座敷童子



088 スギネタリウム



080 座等市の日向ひよっこで踊り



089 ちかすぎいす〜



081 ハート・シップ



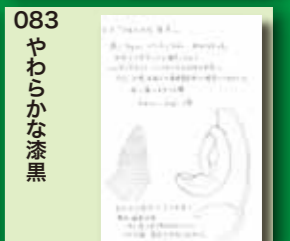
090 レファントスツール



082 egg stool



091 木座布団



083 やわらかな漆黒



092 木馬座



084 みやざき杉の妖精ソファ

座る人の気持ちを思いやる心。 それぞれの思いを込めた最終プレゼン。

今回の作品テーマは「座」ということで、気軽に座ったり触れたりすることの出来る作品が多く、通りがかりの一般の方々も、様々な「座」に興味津々。触れて、杉の手触りを楽しんだり、座ったりし、感触を確かめていた。震災の影響で、募集スタートが遅れたためその後の時間短縮をはかるため、作者による10分の1スケールの模型製作による2次選考を省いた。そのため、応募されたデザインイメージからいきなり実物大作品の製作へと進むこととなり、作者のイメージを製作側に伝えるのはとても難しいことであった。

しかし、現場で実物の作品を見た作者は、その出来映えに驚き、イメージ以上の作品の前に感激しているようであった。製作者もほっと胸をなで下ろした。この日が完成品との初顔合わせとなる作者もおり、自分たちがイメージした「デザイン画」と実物大の作品を見比べ、細部の確認を行った。スタートを前に、次第に盛り上がる会場の雰囲気を楽しみながら高まる緊張感とともに杉コレクション2011が開幕した。

作者は、イメージ以上の作品の前に、真剣そのもので、自分が思い描いた作品に込めたコンセプトやイメージを丁寧に説明してゆく。毎回のことではあるが、杉コレのプレゼンテーションに、ダジャレはつきものとなっている。審査員の方々は、世間で言えば肩書きの前に「二流」とつくほどの著名な方々が揃っているのにもかかわらず、プレゼンテーションでは常に笑いが必要な要素となっている。「笑い」は、プロや素人、大人や子ども、スタッフとギャラリイという垣根を自然に取り除いてゆき、最後には会場全体の緊張も解け、会場にいる全員が楽しい気持ちで、充実感とともに達成感が残った。

となっていた。座ることによって感じる感触や座り心地に人の心がどう動くのか、考えた作品が多かった。子ども杉コレでグランプリを受賞した「だうこのイス」で小学生の作者が発表したプレゼンテーションには、親を亡くした東北の子どもたちへの「思い」が込められており、その素直な子どものメッセージに会場にいた全員、心が揺さぶられた。今年日本にとって特別な1年であった。これほどの多くの悲しみに包まれたあとだからこそ、人の思いがよく響くのかも知れない。また、杉は、その柔らかさや温かさで人の「思い」を伝えることができると改めて気づかされた。



杉コレクション2011 in 日向

グランプリ 作品 お尻合いイス

宮崎市臨時職員 山内成津子・宮崎県



隣に座った見ず知らずの人と、自然と会話が弾む。何度か顔を合わせるうちに知り合いになる。そんな人の温かさを感じるようなイスがお尻の形をしていたら、何だかふふっと笑ってしまいませんか？イスに腰掛けて話しをする事で、人と人との繋がりを感じて欲しいと思います。

杉コレに参加して本当に良かった。もつと沢山の人に、杉コレを知ってもらいたい。

杉コレのチラシを見た日、9ヶ月の娘のお尻を見てこれだ!!と思いました。知り合いにお尻をかけて、お尻合いイス。親父ギャグすぎるかな...ちよつと考えましたが、良い記念になればと思ひ応募しました。それがまさか、最終選考まで残るとは。連絡を受けた時は本当にビックリしました。

私の製作者は延岡木青会の工藤さん。写メールや電話で、何度も連絡を取りながら作成してもらいました。

最終選考の日、あまりの大事に気が引けました。何より、他の作品が魅力的すぎて、プレゼンが終わった後、何度も帰ろうと思ひました。表彰式も自分には関係ないなと思ひてい



たので、名前を呼ばれた時は本当に嬉しかったです。実は私の原案は円柱に割れ目の線だけを入れた簡単なものでした。それを素晴らしいものに作り上げてくれた工藤さんや、協力者の方々に感謝、感謝です。杉コレに参加して本当に良かったです。もつともつと沢山の人に、杉コレを知ってもらいたいです。

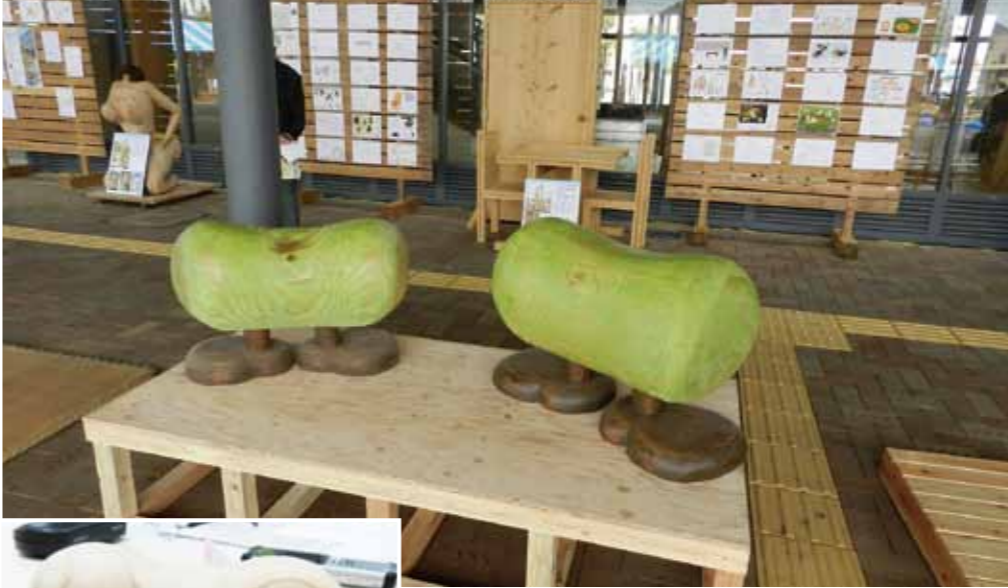


内田洋行賞 遠藤さん家のイス

宮崎県立日向工業高等学校建築科1年3人娘！
黒木栞・小川紀子・小田まりあ・宮崎県

今回、杉コレ初参加で「内田洋行賞」という立派な賞を受賞できてとても嬉しかったです。建築科に入学して杉コレの存在を知りました。テーマから3人で話しあった雑談が、1次審査を通してビックリした反面、最優秀賞を取るぞとやる気も出て3人で頑張りまし

た。杉コレを通して、杉の素晴らしさや利用価値など様々なことを知ることができ、貴重な経験となりました。これから建築について勉強してものづくりの大切さを感じながら来年は一番を狙って、最優秀賞を目標に楽しく頑張りたいと思います。



日向市駅横の広場には、長くて大きなベンチはあるけど、ちっちゃなイスがない。だから豆の形をした腰に優しく、疲れた人がちょっと一息つけるようなイスがあったらいいなと思い、提案しました。「えっ、これなに豆?? てか、えんどう豆!? これは、そら豆やかい!!」



コンフォルト賞 低スギあぐら椅子

東京理科大学大学院修士2年
高見沢仁志・原 章・神奈川県

昨年の西都に続き、2度目の杉コレです。前回の最終選考会では無垢の杉のやわらかい感触やぬくもりに触れ、それがたいへん印象に残りました。そこで今回は杉の優しさを体感できるものをと、座布団のような大きな座面を持つ椅子を考えました。公共の場であぐら座りは抵抗があるのか、なかなか座つても

らえず焦りましたが、是非にと勧めると皆さん「座り心地いいね」と言ってくれたのが嬉しかったです。座面に凹曲面をつけるという無茶な注文をしましたが、制作担当のトリアさんにはちよつと想像もつかないようなワザで実現していただきました。ただただ感謝です。来年はさらにレベルアップしたものを考えて、また宮崎に戻ってきたいと思っています。



いつも高い椅子に座って過ごすオフィスのような場所に、床座の要素を取り入れたらきっと面白い。座面が広いこの低スギる椅子にあぐらをかいて座ると、目の高さはしゃがんだ時と同じになる。あぐらで会議、あぐらで休憩、あぐらで打ち合わせ...日本の未来を創る新しいアイデアも、あぐらから生まれるかもしれない。さあ座ってみましょうか!!



シーガイア・MOVE IT! : アワード作品

肩車

馬話設計工房 馬話 和明・馬話 菜央・宮崎県

あの肩車の感覚を、杉を使って表現できないだろうか：これが今回杉コレに応募したきっかけです。

座るために必要な椅子は、仕事や食事の時に座るものであり、機能性に重視したものを

選びがちです。そんな中、幼い頃に体験したぬくもりの感じることのできる椅子が肩車のな

のすばらしさを改めて実感しました。さらに、シーガイア賞というすばらしい賞もいただき、感謝しています。

最後に、製作にあたっていただいた、チェーソソアートの西元様、染川木工の皆様、ありがとうございました。

杉コレを通して、杉のすばらしさがさらに伝わることを願っております。



私たちが日常生活に求めるイスは、なんでしようか?仕事・食事・観覧、何かの目的に必要なイスです。肩車のイスは、座った時に感じる木のぬくもりはもちろんの事、心のぬくもり、誰も思い出のある肩車、座ったと同時にタイムスリップ!座る人々の記憶のイス、心も休まるイスが、肩車です。さあ座ってみましょうか!!



日向市長賞 登る座

宮崎県立日向工業高等学校建築科2年 甲斐直樹・宮崎県

僕は、当日朝から、とても緊張していて、何度目プレゼンテーションの練習をしていました。そして、大勢の人々やすぐく有名な審査員の方々の前でプレゼンは、やはり緊張したのですが、本番になると不思議と緊張よりも、少しでも自分の作品の良い所を知つてほしい。どうやったら分かりやすく伝わるのだろうと思つている自分にビックリしました。

そして、結果発表の時には、惜しくもグラプリを取ることはできませんでしたが、わざわざ特別賞の市長賞を作ってもらい、その賞を受賞でき、とてもうれしく思っています。杉コレを通じ様々なことを学び成長できたと感じています。また来年も挑戦したいと思います。



ただ座るだけの目的の椅子ではなく、座ることが楽しくなる椅子。風や人の賑わいを感じられるシンボリックな椅子の提案です。幼少時代TVで観たラスカルの家。将来こんな家に住みたいと想い続けてきました。夢をカタチに・・・想い届け!



作品 グランプリ だっこのいす

日知屋東小学校3年生 安田圭沙・宮崎県

わたしが東日本大しんさいでひさいした人
を思つてデザインした作品がグランプリにえ
らばれてとても光栄に思います。
プレゼンテーションの時は、ダブルシーのお
二人がもりあげて下さったので落ちつくこと
ができました。そして、内とう先生を始めしん
さいのみなさんにたくさんほめていただき、
すぐうれしかったです。かん係者みなさん、
ふじなが木工所さん、本当にありがとうございます
でした。



てきました。杉のかおりいっぱい列車に乗っ
て鉄道大好き
な弟も大よろこ
びでした。
杉のあたたか
さで、みんなが
いっぱい笑顔に
なれるといいな
と思います。

お父さんやお母さんの
だっこのようにあたた
かい気分になれるよう
に考えました。両手でぎ
ゅっとだきしめられると
ころがポイントです。

作品 優秀賞 ゆつくりすわれる杉のまあるいす

宮崎大学教育文化学部附属小学校6年生 日高裕葵・宮崎県

私が杉コレに応募したのは夏休みにお母さ
んが「夏休みの図画工作の宿題にもなるから
これに応募してみたら？」と言われたのがきつ
かけです。夏休みも終わって

9月の終わり頃、杉コレの事務局の方から
「最終予選に残りました。」と電話がありまし
た。私は残れるなんて思いもしなかったのです
ごくうれしくなって思わずガッツポーズをし
ました!!それからいすを作ってくれた河島さ
んから電話があつていろいろ聞いてくれて、わ
ざわざ小林から宮崎まで来てくださって、い
すの小さくてかわいいのを作って持ってきてく
れました。

そして当日：日向で行われた選考会で初
めて実物を見てびっくり!私が思っていた通
りのいすができていました。
プレゼンとかあつてきん張したけど、インタ
ビューの
WCAの3
人がおもし
ろくて、楽し
かったです。
来年もがん
ばります。



杉コレクション2011 in 日向

入賞 作品 AO Hocker

佐賀大学准教授・yha architects
平瀬有人・平瀬祐子・福岡県

杉の軽さや柔らかさを生かし
りとう向き合つていきたいと考え
ています。



スギ生産量日本一!みやざき
スギ活用推進室の若松です。西
都原で「次回は裏方一筋」と誓つ
たのに、例の『セクシーステッ
プ』でやり損ねた「ひざ枕」に挑
戦してしまいました。先生方か
ら「セクシー不足」と御指導?
を賜りつつ、今年も染川木工所
さんの御協力でイイ感じの作品
に。連続入賞十イベント成功で
大満足の二年目でした。



杉コレクション2011 in 日向

入賞 作品 ひ座すぎ(hiza-sugi)

公務員 若松茂樹・宮崎県

昨年西都でのデビュー作「セクシーステップ」
でなし得なかった「ひざ枕」を、お茶の間サイズ
で実現。小さな作品ですが、西都木青会の企画
と染川木工所さんの腕前、集成材の織りなす木
肌と木目など、見どころ満載です!



杉コレクション2011 in 日向

入賞 作品 杉のパレット

プロダクトデザイナー 杉浦哲馬・栃木県

第一回杉コレ以来6年ぶりに参
加した杉コレは以前と変わら
ず、むしろ以前より激しくよく
わからないコンペになっていた。
プロダクトなのかアートなのか
クラフトなのか?でもこれが杉
コレだ!杉が好きなんだから
ら...それを表現するのにジャ



工業製品やマスプロダクトの素材といえば、主に樹脂や金属を使っ
ている。木材を使用した工業製品もあるが、そのポリウムや使用
できる用途は限られている。そんななかで、運搬・保管用に使われる
パレットは数少ない大量生産・大量消費される木材工業製品の一
つだ。実用に即した機能的な形とシンプルな美しさは使う場所や用
途が変わっても本質的な魅力は変わらない。

既肥杉の軽さを活かした、見た目にも軽やかな「座」
を提案します。コンパクトで持ち運びの容易な形態な
ため、複数個つなげて円形の「座」のような利用や、リ
ニアな長いベンチのようにと様々なシチュエーション
に対応した「場」をつくることができます。また、座面
が台形なためスタッキングも可能です。
さあ座ってみましょうか!!



イメージを具現化する 実物大作品こそ

杉コレクション最大の魅力！

毎年、多数の作品が応募される中、最終選考会に選ばれた作品は、実行委員たちによって、実物大で再現される。

今回で7回目となった杉コレクション。これまで、製作された作品には、それぞれ様々な物語があった。アイデアを考える作者と、製作を担当する製作者との間で生まれる、葛藤や連帯感、本番の舞台に姿をあらわす作品がもつ不思議な魅力は、どのようにして生まれてくるのか。

全国から応募された作品は、いくつかの選考会を経て、毎年おおよそ10作品が選ばれる。選ばれた10作品は、宮崎県木材青壮年会連合会の7つの会団が手分けし、作品の製作を担当する。

昨年までは、実物の10分の1スケールの模型の製作を作者が担当し、出来上がった模型から実物大のイメージを作り上げ、それから必要な作品は設計図面を書き起こし実物大作品の製作へと進んで行く。

全国から寄せられる応募作品の中には、プロの建築家の作品もあれば、小学生や、全くの素人の作品もある。それぞれが、毎年のテーマに沿って、それぞれが思い描く作品を表現して応募してくる。当然、プロと素人の応募作品には表現力には大きな開きがある。

通常のデザインコンペの場合、「表現力で

培ったプロの知識を活用する。

たとえば、杉は、生えている場所に応じ年輪の幅が異なる。それによって乾燥時に、材の収縮率に多少の変化が出る。また、同じ杉でも、根元に近い材料と、先のほうの材料では目のつまりや年輪の入り方が異なり、やはり乾燥が進むと予想の出来ない変化が生まれる。そういったスギの特徴を全て把握した上で、それぞれの作品を表現するためには、どんな材料が必要なのかを的確に選定していく。

足りないイメージはお互いが 歩み寄り、埋めてゆく

製作担当が、初めて作品の絵を見た時点で、概ね必要な材料や作業の手順がイメージできる。

ところが、作者と打ち合わせを重ねると、相手のイメージに違和感を感じる場合もある。特に、作者が杉はおろか、木材の知識に乏しい場合、杉の特徴を説明するところから始まる。イメージにこだわる作者と、製作のプロとしての意見がぶつかり、相容れない要望に辟易することもある。作者のこだわりが、スギでは非常にむずかしいことも多く、これまでの経験では解決できない場面にぶち当たることよくあることである。

日常の仕事ならば、設計をやり直し、可能な形に変更したり、スギでは出来ない部分に別の素材を使用したり、より合理的な方法で仕上げてゆくことが当たり前である。しかし、それを許さないのが杉コレであり、プロの技術を試される場面が非常に多い。

作者と激しくやり合った末に完成する作品

ある程度の技量を備えていない作品は、その時点で対象から外される。しかし、杉コレクションの場合は、あくまでも作者のイメージした物にこだわり同じ舞台で選考される。

稚拙な表現から、作者が作品に込めたイメージを感じ取り、作品になった場面を想像する。応募された作品は、いずれも平面で表現されたイメージのみである。プロの応募作品は、平面の中に、実に見事に立体のイメージや、作品のコンセプトがまとめられる。それに対し、素人のイメージは稚拙なスケッチに簡単なコメントだけの場合もある。

「アイデア」と「こだわり」と 「技術」のバランス

製作担当にとって最も難しいのが、作者のこだわりをいかに表現するかという点である。

言うまでもなく、杉の木は、コンクリートやプラスチックなどとは異なり、思い通りにならない材料である。しかも、生きているのである。平面や直線に見える板も、時間とともに乾燥がすすみ反りやゆがみが生じてくる。

プロの建築家による作品の場合、表現されている線には、1本1本意味があり、寸分の違いが作品のバランスを崩してしまう。

精度にこだわった作品には乾燥の進んだ材料を選び、乾燥によって生じる寸法の変化を最小限にとどめる。

それぞれの作品の、各パーツに応じ、杉のどの部分を使えばいいのか？どのくらい乾燥していれば良いのか？何年生の杉が必要か？など、適当な材料を選定するために、何十年と舞台となるのである。

は、まさしく製作担当と作者との間に出来た子どものようなものである。

最終プレゼンでは、製作担当が舞台に立つ訳でもないのだが、作者とともに緊張感が募ってくる。本番では、作品に対する思いは作者と同じであり、製作担当にとつても晴れの舞台となるのである。

今回のグランプリ作品となった「お尻合いイス」の応募時点のイメージは非常に弱々しく、表現力も稚拙な物であり、とても作品として表現されるようなものではないと誰もが考えた。ところが、イラストに添えられた母としてのメッセージが審査員の心に届き、製作者のイメージ力で作品を表現し、だれもの心にも響く作品に仕上がったのだと思う。

製作を担当した延岡木青会では、この作品のために100年生の杉を用意した。作者のイメージを出来るだけ具現化するため、何度も直接会い、打ち合わせを重ね、お母さんが愛おしむ子どものお尻の表現に微調整を重ね、微妙な曲線を実際に座りながら、感触を確かめながら仕上げていった。

杉コレクションの作品が持つ魅力は、完成に至るまでに、複数の人々の「絆」や「思い」が重なっているからだと思う。

毎年、最終審査には非常に時間がかかる。どの作品にも捨てがたい味わいと感動の物語が込められており、簡単には選定できないのが本場の所である。

それぞれの作品にはどのような苦労が重なっているのか。作者と製作者とのやりとりに思いを巡らせながら、作品にふれてみるとその魅力はいつそう味わい深くなる。



杉コレ 2011 審査員 コメント



南雲勝志氏
南雲デザイン事務所代表

昨年の杉コレ西部のスローガンは頑張ろう、宮崎！そして今年は予算が限られる中、口蹄疫を乗り越え、日向の杉コレを何とか盛り上げようとスタートする直前に東北大震災が起きた。岸本実行委員長始め主催者は大いに悩んだ。しかしこういう時こそ杉コレの楽しさで日本を元気にしようではないか、そんな理由で開催に踏み切った。杉コレ設立者の海野さんは人賞作品を東北に差し上げることは出来ないだろうか？などと話していた。例年より一ヶ月遅れのスタートだった。二次審査を省略しての本審査当日、時間のない中にも入賞作品がズラリと並んだ。やってみるとさすが上手い仕切りであった。7回目となる今年は杉デザインの競演というよりは優しく温かく人の心をつなぐ作品が多かった。中でも東北の子供たちの思いをデザインした子供杉コレグランプリ作品は人々の心をつなげた。それを東北に送るプロジェクトが発足する。悩んだがやってみると良かった。そして初心を貫いた杉コレであった。



岩田正晴氏
株式会社内田洋行取締役執行役員
オフィス事業本部長

日向市にて開催されました杉コレクション2011が今年も無事成功に終わりましたこと、関係者の皆様のご努力に敬意を表するとともに、お慶び申し上げます。当社としてはこの杉コレを後援させていただき5年目となりますが、私個人としては初めて、しかも重責の審査員として参加させていただきました。

初めて日向市駅に降り立ち、高架駅にも関わらず木造を思わせる雄大な駅舎と、そこを中心に広がる広場での賑やかな風景は、産業界と行政、市民、学校が世代と立場を超え自然と交流されている理想的なコミュニケーションの姿に映ったことがまず印象的でした。

さて、杉コレの審査ですが、今年は特に夢や絆を想起させ、心温まる作品が多く、プレゼンにおいても作者の皆さんから熱いメッセージを通じ多くの感動を頂き、素晴らしいイベントであったと思います。当社もオフィスや学校等の空間設計を通じて、国産材活用による環境貢献を推進してきておりますが、木という素材の温もりとデザインの重要性を再認識し、そしてそれらに関わる方々との出会いとその想いを実感し、当社の事業を通じてその想いに応えていきたいと思っています。次回の杉コレでは更に当社の参加者も増やしたいですね。

この度いろいろお世話になりました、宮崎県木材需要拡大推進会議、宮崎県木青会、実行委員会の皆様、そして多くの関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。



津高守氏
九州旅客鉄道株式会社
鉄道事業本部 施設部長

杉コレは昨年の日南、昨年の西都と2年続けて見物をしたことがあるので、まさか審査員の役目が回って来るとは思ってもしなかった。で今回のお話を伺ったときには正直驚きましたが、スギダラ活動を業務の中心に据える者としてこのような光栄は無いと考え参加させていただきました。

今年は模型を作って審査する2次審査は無かったので、製作者の皆さんは応募者との調整がいつも増して大変だったことと思います。その割にはどの作品も応募者の意図をよく反映できていたと思いますし、グランプリを受賞したお尻合いイスをはじめとする幾つかの作品は主婦の方や学生さんがデザインをしたもので、誰でも参加できる杉コレの主旨に大いにマッチしたと思います。

また、会場にいた全員が感じたことでもあります。今回は子ども杉コレの作品が2つとも秀逸だったと思います。特にグランプリを受賞した安田圭沙さんのプレゼンには目頭が熱くなりました。彼女の真摯な思いが被災地に届くことを願ってやみません。最後になりましたが、主催者であられる宮崎県木青会連合会の皆様に感謝申し上げますとともに、私共も引き続き「杉使い」「木使い」を積極的にこなしていくことをお願いして審査員のコメントとさせていただきます。



丸山康幸氏
フェニックス・シーガイアリゾート
取締役会長

フェニックス・シーガイアリゾートでは、宮崎の良質な地域資源を県内自治体と一緒に発信し、多くのゲストに宮崎の良さを楽しんで頂く活動を推進しています。その一環として、今年度より「シーガイア・MOVE IT! アワード」の設立を通じて、杉コレを後援させて頂くことになりました。

今回初めて参加させて頂き、デザインを応募された方の考えや想いに感心するとともに、杉コレが、デッサンをもとに実物大に作り上げる木青会の方々、審査員として参加される日本を代表する建築家やデザイナーの方々、以前から杉コレを後援・応援されている実業界・行政の方々など背景の異なる多くの皆さんに支えられた、素晴らしいイベントであると感銘を受けました。

フェニックス・シーガイア・リゾートはMOVE IT! プロジェクトとして、『カラダ、動かせ。ココロ、動かせ。アタマ、動かせ。』をテーマに、シーガイアを訪れたゲストにカラダ、ココロ、アタマを動かして、より元気になっていただけるような、多彩なプログラムの開発・充実を図っています。私と杉コレとの出会いは「杉コレクション2009 in 日南」の入賞作品である、「森のおっぱい海へゆく」を拝見したことです。これはまさにココロ動かされる出来事でした。この作品は現在、シーガイアの宿泊施設であるラゲゼ一ツ葉／コテージ・ヒ



加藤裕彦氏
宮崎県環境森林部長

思わず「ふふふ」となる作品の数々でした。今回のテーマは「座」ということで、私たちの生活に密接に関係するものですし、直に人と木が接するテーマです。

木のぬくもりは体温を持つ人間だからこそ感じることができるでしょう。そして今回は、木の温かさ以上に人の心の温かさを感じさせるものになりました。

「お尻合いイス」「ひ座すぎ」「肩車」「低スギあぐら椅子」だこのいす」など、作品の奥に作者のみなさんの心の温かさを感ずることができました。

「絆」という言葉があらためて思いおこされた2011年でしたが、木のイスを通して、日常の人々との絆というものを感ずることができました。

日向市駅の杉の庇の下で、スギ作品群に出会えたのも印象的でした。来年も素敵な杉コレが開催されることを楽しみにしています。



飯村豊氏
宮崎県木材利用技術センター
所長

木材利用技術センターでは、スギ森林資源の成熟化に伴い生産量が増加してい

ムカ内に設置され、県内外からのゲストに親しまれています。私どもは、今後も継続的に「ココロ動かす」杉コレを後援させて頂きたいと考えています。



内田みえ氏
建築・インテリア専門誌「コンフォルト」エディター

これまで取材する側として関わらせてもらった杉コレに、今回は審査員として参加させて頂きました。気持ちのいい緊張感を持って最終審査を楽しむことができ、参加できたことに感謝しています。

今回は会場が駅前広場ということにより多くの人々の目に触れたことはよかったですね。過去の作品展示もよかったです。作品もバリエーションがあつたと思います。作品もバリエーションがあつたと思います。作品もバリエーションがあつたと思います。作品もバリエーションがあつたと思います。

今年はなんといつても東日本大震災のことが大きく影響しましたね。しかし、それをあのようなカタチで、しかも子ども部

る大径材の様々な用途に応じた利用法を研究しています。どのような商製品を開発すれば利用者に喜ばれ、永く愛されるのか常に意識して研究に取り組むよう心がけています。正に、「杉コレ」が目指すところと同じです。この視点で、今回のテーマの「座をどう表現しているのか様々な観点から評価させていただきました。力作揃いの中で私が最も惹かれたのは、見つけていると作者の感性と製作者の熱意が伝わってくる作品でした。表面の軟らかさが、巧みに表現された造形と相まって愛らしさを感じさせます。木目を最大限生かした美しさに見とれ、気がつけば撫でていて、座わる体制になっていました。どの作品も、独特の個性がありますが、共通するのは材質の柔らかさに素直に向き合っている点だと思いました。素材に素直に向き合うことこそ利用者と杉の距離間を縮める基本だと教えられました。



黒木健二氏
日向市長

「杉コレクション2011」が、全国有数の杉生産地の耳川流域にある日向市、そして、この流域の香り高い木材を利用して、市民をはじめ多くの関係者のコラボレーションにより建設された「日向市駅」で盛大に開催されたことは、大変意義深く、感謝申し上げます。

今回の「杉コレクション2011」の製作テーマは「座」でしたが、多数の応募をいただき、一次審査を勝ち進んだ、一般部門、

門から現れるとは思っていませんでした。「だっこのいす」は、杉のポテンシャルをみごとに引き出し、表現した作品だと思えます。

審査後に行われたパネルディスカッションは、とりとめもないブレインストーミングでしたが、「だっこのいす」と共にそこから見えてきたものが多々あつたかと思えます。内藤委員長が「杉の弱さ」について言及されましたが、私も心から同感しました。杉の最大の特徴は弱さにある。その弱さを良さにどう変えるか？そこらへんに杉コレの今後も見えてくるのではないのでしょうか。杉はもともと、多くの日本人が求めているものを持っているのですよね。次回も楽しみにしています。



中川和也氏
宮崎県木材青壮年会連合会
会長

今回、「杉コレクション2011 in 日向」が無事開催できました事に、心より感謝申し上げます。今年も当初より開催が危ぶまれましたが、資金面、開催日時、審査員の先生方のスケジュールなど調整に難航していましたが、そんな折、3月11日東北大地震が発生しました。

見たこともない映像が、次から次と放映され、甚大な被害と被災者、こんな状況では今年は無理かなと感じました。しかし少しずつ変化がありました。「復興」が叫ばれるようになり、多方面からの支援の輪が広がりました。そこで私たちも、何かをしなくてはいけないと感じました。でも

子供部門のそれぞれ最終プレゼンテーションが当日行われ審査をさせていただきました。どの作品も杉の持ち味を充分生かした素晴らしいもので、審査には大変苦労をいたしました。

今回は一般部門では、宮崎市の山内成津子さんの「お尻合いイス」、そして子供部門では、日向市立日知屋東小学校三年生の安田圭沙さんの「だっこのいす」がそれぞれグランプリを受賞しました。山内さんの作品は、隣に座った見ず知らずの人と、自然と会話が弾むような、人の温かさを感じられるものでした。又安田さんの作品は、東日本大震災で両親とはぐれ、寂しい思いをしている子供たちが、お父さんやお母さんにぎゅつとだっこされているような気分になれる椅子になっており、特にそのプレゼンテーションは、木の温もりや両親との肌の温もりを併せて感じさせるような、私達の胸を打つ大変素晴らしいものでした。

そのようなことから、杉コレクションの審査委員長である内藤廣さんから、このような純粋な想いは、被災された方々の勇気の源になるとのお話があり、被災地に安田さん、さらにはその想いと作品を届けようとして、後日創設されました。

最後になりましたが、今回の杉コレ開催にご尽力されました皆様に対しまして感謝を申し上げますとともに、このことにより、今後ますます木材の需要拡大が図れることをご祈念申し上げます。

杉コレの準備は遅れ、諸問題も解決せず、手探りの時間が過ぎていきました。しかし状況は少しずつ好転し宮崎県産材流通促進機構、内田洋行、建築雑誌コンフォルト、フェニックス・リゾート・シーガイア、JR九州など関係者の皆様のご協力のもと日向市駅前「木もれ日ステージ」で執り行うことが出来ました。

今年も一般部門が全国から100点余り、子ども部門も数十点集まりました。一次審査を内藤委員長の事務所をお借りして、行いました。選ばれた一般部門8作品、子ども2作品、計10作品を実物大に製作し、11月12日開催できました。

当日のプレゼンテーションも素晴らしい、心に残る大会となりました。今後も杉コレクションが継続していただけるよう関係者の皆様のご支援と、ご協力をお願いします。来年の成功をお祈りしたいと思います。

「感謝」



審査員の方々にサインしていただいた、杉コレクション2011記念のサインボード。

これまでの杉コレを振り返り これからの杉コレを考える。 グループディスカッション開催

最終選考会終了後、J A会館に会場を移し、これまでの杉コレを振り返りつつ、これからの杉コレを話し合う、グループディスカッションが開催された。

今回の日向での杉コレクション開催で、県内を一巡したことになり、今後の杉コレクションを検討するには良い機会であった。

グループは、これまで杉コレに携わってきた審査員経験者や行政担当者、実行委員を務める宮崎県木材青年会連合会のメンバー（以下・木青会）らによって構成され、それぞれの立場からの杉コレについて様々な意見を交換した。

また、今回のグループディスカッションは一般にも公開され、木青会の会員や、一般の参加者もそれぞれのテーブルを囲んで、生の意見を聞くことができた。

グループごとに、これまでの杉コレを見つめ直す作業から入り、今後の展開を考えるにあたっては、やはり、それぞれの立場により捉え方が異なり実に様々な意見が発表された。

限られた時間内での検討ではなかなかまとまった答えは得られなかったが、今後の方向性を期待する意見や、杉コレの可能性に目を向けた意見。また、抱える問題点に焦点を絞ったもの等、いろいろな視点からの意見を聞く

ことができ、杉コレの存在の広がりを感じることができた。

最後に審査委員長からの総括を受けグループディスカッションの総括とした。

【内藤審査委員長の総括(要旨)】

杉コレは、まだまだ発展すると思うが、これまでの成果をきちんと見直した方が良いと思います。いろいろな良い物を生み出してきているので、そういったものを、きちんと摘み取りができていくかどうか、その先をどうするかを考えることが大切だと思います。

今行政が環境問題の観点から、木材をもっと使っていく、とする動きがありますが、そういった強制的な活動ではなかなか本物の「杉の文化」は育ちません。

杉コレクションは、強制ではなく、真の「杉の文化」を育てるひとつとしての役割を担っていると思います。

杉はとても弱い材料です。弱さを認めつつ、ぶつかっても痛くないとか、転んでもケガしないとかの良い部分もあり、弱いからこそ受け止める力があつたり、さわると温かくてなんとなく手触りがいい感触があり、心を和ませてくれる。杉は、その弱さで人の心の中に入っている材料だと思っています。

大震災以降、今の日本の社会にはそういった弱い物を受け入れて行こうとする思いやりの気持ちがたくさん溢れていると感じます。

この時期に、弱い杉をもっとみなさんに知ってもらうことは、杉コレクションのとても大切な役割ではないでしょうか？



杉コレクション2011を終えて

実行委員長 岸本真幸

今回で、7回目となる「杉コレクション2011 in 日向」日向市駅前広場、内藤廣氏設計の木洩れ日ステージで開催され、盛大の内に終えることが出来ました。テーマに（座）をイメージしたコンパクトな作品が、全国から111件の応募があり、一般部門、子供部門で合わせて10作品が最終選考に残り、中でも子供グランプリに選ばれた、作者、日向市内小学3年生プレゼンテーションでは、東日本大震災で被災された方々へ思いを伝えたく、（だっこのいす）という作品を考え、純粋な気持ちで、審査員の方々や関係者、来場者に感動を与えました。今回までの、作品応募総数は713件となり継続により更なる杉の真価が、発揮できればと思います。

最後に杉コレ審査委員の皆様、応募者関係者の皆様へ心より感謝いたします。



杉コレクション2012に向けて

次期実行委員長 横山淳二

杉コレクション in 日向の関係者の皆様、お疲れさまでした。日向杉コレが大盛況に終わり、次期開催地である我々宮崎に引き継がれました。身が引き締まる思いです。

宮崎での開催は二回目となります。前は2005年にフローランテで行われました。青い空に緑の芝の空間に自然に溶け込んでいく杉コレ作品。その時の場面が思い出されます。

さて、今回の開催場所の案として商店市街地「ニシタチ」が上がっています。街市、他イベント等が行われ多くの人が集まり賑わいをだしています。その多くの老若男女の方々に触れてもらって杉の暖かさ、癒しを感じてもらいたいと考えています。日向の子ども杉コレのグランプリ作品「だっこのいす」みたいな人と人を繋げる暖かい、また感動が生まれてくる作品が集まってくるテーマを考えています。

我々宮崎木青会が一丸となって頑張ります。また、関係者の皆様には来年もご指導、ご協力賜りますよう、よろしく願っています。